

第5回 神戸アートビレッジセンター地域活性化機能検討会 議事要旨

| 日 時 | 令和3年9月9日(木) 15:00-17:00

| 場 所 | オンライン(zoom)

| 参 加 者 | 服部委員、やなぎ委員、近藤委員、藤坂委員、西島委員、三上委員、尾堂委員、
宮道委員、前田委員 (KAVC 柳谷館長代理、林チーフ)

| 議事内容 | ①実験イベントの実施結果について [別紙1]

②機能见直しの方向性について [別紙2]

③まちと連携した施策について [参 考]

| 委員からの意見・提案 |

① 実験イベントの実施結果について

〈事務局〉

- ・第4回検討会について議事要旨を基に振返り。
- ・8/1~20に子育て世帯向けの実験イベント(こども図書コーナー、中高生のための自習室)を実施した。広報期間が短く、十分に周知できたとは言えないが、一定数の利用があった。
- ・こども図書コーナーについて、利用者からは概ね好意的なご意見を頂き、家でできないことや子供がアートに触れる機会を求める意見などがあった。
- ・時間帯で見ると午前中が最も利用者が多く、18時以降は来場者が少ない。土曜マルシェや読み聞かせなどイベント実施時の利用者が多くなる傾向も見られた。また、近隣住民の割合が多く、その中で通りすがりの人も多くいた。
- ・自習室については全体と通して平均1人/日と利用者が少なく、あまり需要が読み取れなかった。

〈委員など〉

- ・今回のイベントは夏休みの時期に実施しており、長期の休み以外の需要についても計ってはどうかと思う。
- ・子どもがいなくなる夜の時間帯の使い方を考える必要がある。

② 機能见直しの方向性について

〈事務局〉

- ・これまでの検討会を踏まえて機能见直し方針の概要をまとめると共に、ゾーニング案についても修正した。また、文字だけではイメージしにくいいため、例示としてもう少し具体化したイメージ案を作成した。このように整備するという意味で作成しているものではなく、あくまでも意見交換の材料のため、プランの細かい部分についてはなく、機能としてあるべき姿についてご意見頂きたい。

- ・第4回の検討会でも議論となったシアター機能について、周辺に民業としての映画館もあるので、市としては今のような常設の形でなくて良いのではと考えている。ゾーニング案でも示している通り、完全になくしてしまうという事ではなく、ギャラリーとしての使用をベースに、予めシアターとして使用する日を決めておき、例えばシネマポートフェスのように地域やアーティストと連携したイベントとして映画を流すことができるように機能を見直してはどうかと考えている。
- ・同じく1階の喫茶機能についても議論があったが、地域とのつながりや場所性からも、新たにカフェなどの事業者を誘致するというよりは、現在食堂を運営している「はっちゃんの台所」にまずは相談するのが良いのではと考えている。

〈委員など〉

- ・大枠の方針としては良いように思う。
- ・ハードではないが、大衆演劇など新開地らしいまちの資源を活かす使い方をすべき。
- ・シアターで子どもが映写技師に触れるなど制作側に立つ事で憧れにつなげる講座の実施。
- ・まちの中で表現する自由を作っていくなど、アーティストが根付くために行政による規制緩和が必要。
- ・KAVCでは興業映画ではない映画を扱っているイメージ。新開地は映画のまちを掲げているが、シアター機能を手放して良いのか。→なくすわけではない。
- ・宿をしていると、他の地域にないものを案内したいのでそういう施設になってほしい。そういうものを好んでいる人もいる。
- ・著名なアーティストを呼ぶことが他の人やアーティストを呼ぶことにもつながるのでは。
- ・飲食はクリエイティブコモンズとするのか。→イメージ案ではその想定。
- ・現在の施設では集中してクリエイションできる部屋がない。
- ・こどもペイントルームやミュージアムショップなどは運営上人が必要。部屋を分けて機能を付加するのであればオペレーションもセットで考えるべき。
- ・例えば大衆演劇の役者のトークショーを実施するなど、地域にあるものを活用すべき。
- ・イベント時と普段のそれぞれの使い方を考える。
- ・アートに関心がない人をどう呼び込むか。
- ・新開地の歴史や専門書のアーカイブを残すのもKAVCの役割では。
→アーティストがやってきたことのアーカイブも残すべき。
→大衆演劇を研究する機関・資料館などあっても面白い。
- ・トークショーと映画のセットイベント等も考えられる。
- ・クリエイターを育てる場所に。
- ・駐輪場がない。また、まちを周遊するためにコベリンがあると良いのでは。
- ・機能見直しには運営側の手腕も問われる。
- ・スタジオにギャラリー機能を持つていくのはどうか。
- ・映像を学びたい人の需要は増えている。グリーンバックのスタジオは神戸にはないので

は。

- ・地域連携は少し飽和気味な気がする。
- ・案が実現すれば路面から見れば賑やかに見えると思う。
- ・現案はファミリー向けの要素が強いので夜の使い方が課題になるのでは。
- ・ここだけのために人を呼ぶのは難しい。
- ・オールドメディアを推すのも一つの戦略だと思うが、間違えると古めかしいだけになる。
- ・おしゃれなカフェに負けない濃厚な魅力が必要。
- ・寝転がれるような設えがあると良い。
- ・空間を使う人を集める告知が必要。
- ・ギャラリーとシアターを兼ねるのであれば、設えが切替えられるよう検討してほしい。(ホワイトキューブ、ブラックボックス)
- ・映画上映が短期間のイベントになると、映写技師の確保が難しくなるかもしれない。
- ・機能見直しと併せて運営上の検討も必要。
- ・作品を制作、販売できる場所などアーティストの支援になるような使い方を考える。
- ・施設を改修したからといって官だけでできることは限られているので、使う方、運営する方などにもご協力頂きながら良い施設にしたい。

③ まちと連携した施策について

〈事務局〉

- ・KAVCの施設だけでなく、まちとも連携しながら考えていくべきであり、考えられることを参考例示している。

〈委員など〉

- ・せっかく来ているアーティストが滞在しやすくなるよう協力したい。
- ・落語家などと連携してKAVCで講座などする場合、使用料がかかると使いにくいかもしれない。

〈事務局〉

次回、第6回検討会を最終回とし、これまでの検討会を踏まえて見直し方針をとりまとめたく、ご参集頂きたい。